

## NPO 法人環境市民 理事会 第7期 第11回（通算75回）理事会 議事録

日時：2015年9月15日（火）午後7:00から

場所：環境市民事務局

出席者（敬称略）

理事：内田洋子、有川真理子、下村委津子、白石克孝、杵本育生、早瀬昇、  
松田直子、瀬口亮子（skype参加）

委任状提出者

議長委任：植田和弘、竺文彦、花田真理子、牧村好貢

監事：中村広明、吉井英雄

事務局：野村哲二、佐藤寛也

議長：下村委津子

議事録係：佐藤寛也

議事録署名人：杵本育生、松田直子

### ■報告事項

---

#### 1) 会計システムの導入

MFクラウドを導入。当面、試験利用し、問題なければ採用する。

#### 2) マガジンの休止対応について

ファンドレイジング事業の広報戦略チームで検討する。

#### 3) 事業報告

下記、事業を実施。

・持続可能な消費・グリーンコンシューマーネットワーク（仮称）設立準備会  
実施（9/8）

・環境首都創造セミナー2015 ～再生可能エネルギー拡大から 持続可能な  
地域社会創造に向けて～ 10/8（木）

・オーストラリアのエシカル消費最前線

～ITを活用したエシカルファッション推進事例～ 10/23@東京,10/24@京都

・環境首都創造全国フォーラム（10/26,27@北栄町）の実施

### ■討議事項

---

#### 1) 移転先の検討（資料1 物件比較一覧）

#### 2) 9月借入れの検討

京都地域創造基金からの借入れ案の検討（資料4）

#### 3) 今後の議論の進め方について

- ファンドレイジングチームで回復プランを検討
  - 検討する内容
  - スケジュール
- 今年度の寄付キャンペーンについて

## ■決定事項

---

討議事項及び順番を下記の通り変更する。

### 1) 移転先の検討

下記の通り、10月末に「第二ふや町ビル 206」への引越しをすることに決定。

賛成：8人＋委任4人

- ✓ 10月途中から206を借り、10月末までに引越しを完了する。
- ✓ 移転日は11月1日とする。
- ✓ 移転先の住所は「京都市中京区麩屋町通二条下る尾張町 225 番地第二ふや町ビル 206 号室」とする。
- ✓ 急ぎ、ふや町ビルの大家と条件の交渉を開始する。
- ✓ ひとまち交流館への申し込みをキャンセルする。

### 2) 9月借り入れの検討

京都地域創造基金からの借り入れ案の検討（資料4）

下記の通り、当面の資金ショートへの対応策を実施することに決定。

賛成：8人＋委任4人

- ✓ 京都地域創造基金へと300万円の借り入れを申し込む。
- ✓ 9、10月に予想される京都地域創造基金からの借り入れ前の資金ショートについては、理事のうちの有志から120万円程度を借り入れることで対応する。
- ✓ 京都地域創造基金からの融資を受けることができた場合、融資を受けた後に、理事へと返済。
- ✓ 京都地域創造基金からの融資については、来年度4～5月頃の地球環境基金からの振込が入り次第返済する。

### 3) 今後の議論の進め方について

- ファンドレイジングチームで回復プランを検討
- 検討する内容
- スケジュール

今年度の寄付キャンペーンについて

下記の通り、ファンドレイジングチームでの話し合いを、始めることに決定。

賛成：8人＋委任4人

- ✓ 11月半ば又は、12月頭からの緊急寄付キャンペーン実施を目指し、タスクチームで検討していく。
- ✓ 緊急寄付キャンペーンについては、来年度の回復プランを打ち出した上で実施する。
- ✓ 10月半ばに有志で素案を作成し、10月後半の理事会で諮っていく。
- ✓ 素案作成チームについては、後日、日程等、調整をしていく。

## ■ 発言録

---

下村：議事の順番を変更する。

### 1) 移転先の検討

有川より説明。(資料1～3参照)

#### ✓ 資料補足事項

資料2及び3関連

「4事業>(3)社会経済システム事業>「持続可能な消費具現化・グリーンコンシューマー深化」事業」の収入について、資料2(2015 予算修正版)では、人権費も事業収入に計上してあるが、資料3(2016 予算)では「9管理費>(1)給与手当>給与」に別途計上しているので注意。

「4事業>(4)環境政策推進事業>環境首都創造ネットのエネルギーワーキング」の収支見込を前回資料より修正。

「6公共団体等助成金>ファンドレイジング事業」の収支見込を前回の見込から変更している。

「9管理費>(9)消耗品費」にコピー機の印刷代が計上されているので注意。  
資料3「4事業>(10)シェアオフィス」は、下記の事情により、特殊な計上をしている。

- 1 第二ふや町ビル206に引っ越した場合  
→ 枚本代表は別団体を設立してシェアする。
- 2 他の事務所の場合  
→ 枚本代表は別団体設立をしない。

## 質疑応答等

枚本：補足。メリットデメリットの点線の上は引越時、下は長期的なもの。

シェアオフィスは、ふや町ビルの場合、枚本代表の個人事務所がシェアする想定。

最下部の環境首都創造ネットワーク会費は、まだ未定だが、年額での数字。  
2016年度の予算について、事業がかなり減っている。それを回すのに大体何

人いるのかと計算すると2人程度だろうということで、その分を人件費に見込んでいる。

2016年度の事業費のあどぼの学校、グリーン連合については、事務局経費として、もう少し予算をもらえる可能性がある。

下村：物件により収支、事業への影響等あるだろう。

早瀬：資料2、寄付金の今年度額が182万円となっている。次年度より多いが見通しは？

杵本：環境マイスターの個人寄付が、2016年度は事業費内に入っているが、2015年度は寄付に入っている。費目の振り替えで、金額の変化はない。

早瀬：資料2、消耗品に、事務所変更に伴う費用は入れているか？

有川：封筒はその都度刷っているので変わらない。

パンフレット等にシール貼りは必要。

早瀬：水道光熱費は面積割ではないのか？

下村：ふや町ビルの電気は個別メーター。水道光熱費は変わるかも。

吉井：2016年度予算は、黒字ということ。予算が崩れた時に、取り崩さないように。それと計画が崩れた際に、どうするのかを考慮しておいて欲しい。

杵本：残債の残っているコピー機について借り換えできないかという話があったが、ウエダ本社から借り換えは難しいとのこと。(補足：ウエダ本社を入れずにリース会社とやりとりしてほしいとのこと)

新しいコピー機にすると、現状より払う額を毎年減らすことが可能だが、支払期間は延びる。

オフィス家具の始末が必要。ウエダ本社での引き取りはしていない。

処分するカリユースショップに出すかが選択肢。

更新時期が10月末なので、引越し先は今日変更する必要がある。

松田：この2階以外は、厳しいのでは。

グリーンファンドの場合、何か一緒に仕事をしていて相乗効果があれば良いが、現状ではそうではない。空間のシェアだけになるのであれば、事業のストッパーが短いメリットをとり、ふや町が良いのでは。

瀬口：水 do もシェアオフィスで働いている。パーテーション、会議室有無等の条件は。

杵本：パーテーション等はない。完全に一つのオフィス。会議スペース等はあるがオープンスペース。

瀬口：コスト的にウエダビルでよいのでは。一緒に活動するかは、そこまで気にしないで良いのでは。東京でも、そういう事例はある。

野村：ウエダビルの場合、ミーティングは可能か。

有川：可能なスペースがある。

野村：ふや町ビルでは、それが難しいのでは。

杵本：狭いが、可能ではあるだろう。

早瀬：ウエダビルのシェア対象の部屋はどのくらいの広さか。

有川：シェア対象のスペースは小さい。現事務所の会議室程度のサイズ。

共有スペースは大きいが。

早瀬：ひとまちは実際にはしんどい？

下村：しんどいだろう。

杵本：風岡は、ウエダビルとふや町ビルで大きな差はないだろうと言っていた。

早瀬：月の差が 2.5 万円程度か。

杵本：事業継続中の時期なので、引越し作業が小さいのを優先したいと考えている。

佐藤：現状では、条件の良い助成金が、入っているのが少し気になる。次年度は良  
いがそれ以降を考えると少し不安がある。

早瀬：次年度で事業の大勢を変えていくことで、カバーした方が良いだろう。

白石：この額ならふや町で良いだろう。引越しは業者を入れた方が良いのでは？事  
業継続に支障が出そうだ。

杵本：ボランティア+アルバイトでやることを考えている。

前日もコピー機以外はほぼ、自分たちでやった。

中村：引越し時は日割りで借りる？

杵本：半月くらい日割りで払うことを考えている。現状では、借り手は、まだいな  
いようだ。修繕等があり、今すぐ借りることはできない状態とのこと。正式  
な申し込みや交渉はまだしていない。

早瀬：仕事のしやすさはシェアでない方が良いだろう。

お金は、別で考えた方がよい。もっとシンクタンク的工作を増やすのがよい  
だろう。

内田：ここの2階がよいだろう。

早瀬：リースは再リースまで待つと安くなる。それが良いだろう。

内田：次年度から黒字にしないとイケない。そこをどうするのが気になる。

白石：更新期間は？

杵本：2年。

## 2) 9月借り入れの検討

京都地域創造基金からの借り入れ案の検討（資料4）

佐藤より説明（資料4参照）

### ✓ 資料補足事項

現状、寄付キャンペーンを 200 万円程度行う必要がある。寄付金を得られる  
かの見込みは、過去の実績から判断される。

NGO ネットの資金繰りを、環境市民のからの貸付でしているので、両団体が連動してキャッシュフローが動いている。

3月末時点でのキャッシュには、パナソニックの前受金が170万円入っている  
ので、実質50万円ほどのマイナス。それを寄付で取らないといけない。

#### 質疑応答等

内田：毎年、秋はきびしいのか。

杵本：前は貯金があったので回せたが、今はなくなった。また、今年は地球環境基金が2つなので、通常より厳しい。

早瀬：9月は私募債でいけばなんとかなるか。

白石：9月は良いかもしれない。問題は融資を借りられる経理の図にできるか。

NGO ネットの部分もあるので審査が長引きそうだ。

このキャッシュフローを黒にするために寄付キャンペーンを入れ込むとそれも審査が長引きそうだ。

杵本：11月のショートをどうするか。

早瀬：寄付する側の都合を考えると12月のキャンペーンの方が良い。すぐに確定申告で帰る。

一旦、9月以降分、理事から借り入れをして、寄付のアイデアを練り、キャンペーンをする形にしてはどうか。

杵本：それが良いだろう。融資の期間は、次年度4～5月頃の地球環境基金が入るまで、金額は300万円程度を予定。融資が、受けられ次第、理事には返却をするという形を考えている。

早瀬：寄付キャンペーンは、環境市民がこう変わるという話をつけて、打つ必要がある。

白石：融資についてだが、理事は、定款上から外れたことをした場合には責任が発生する。また、善管注意義務がかかる。欠席の理事には、その部分を丁寧に書く必要があるだろう。

瀬口：環境首都創造 NGO ネットの赤字額は、NGO ネットの人は聞いていなので、請求するのは難しいのでは？

杵本：請求ではなく、寄付を呼びかける形になるだろう。

### 3) 今後の議論の進め方について

#### 質疑応答等

有川：今後については、現在のファンドレイジングをベースにチームを組み、回復プランを作成していく方向で考えている。

早瀬：12月の寄付募集については、素案をもっと少数のメンバーで作った方がよいだろう。理事会とその前の素案作成を別途で日程調整した方がよいだろう。

杵本：11月にキャンペーンをするための素案はスケジュールがタイトだ。

白石：現在、次年度については現状維持でトントンになると考えている。回復プランはどのような方針で立てるのか。

収益のある事業を立てていくのか、あるいは、小さな組織でも意味のあることをやるのか。

助成金のあり方が従来と変わっている。NGOやNGOのネットワークが取るのは難しくなりつつある。これまでと変わらない方向で、もう一度チャレンジという形は難しいだろう。新しいところに手を出すか、しばめるか等の判断が必要。

早瀬：11月半ばあるいは12月初めから寄付キャンペーンをする際に、どう変わるのかというビジョンが必要。それならそこまでに理事会が2回くらい必要。

白石：事務局スタッフは、その間、耐える形なのか。それとも、他の手段を考えるべきなのか。次年度は2人分の人権費計上であり、状況はきびしい。お願いをするべきか、もうしないのか考える必要がある。

杵本：4月以降はどうするつもりなのかは当人の意向もある。

環境首都創造ネットも減り、現在2.7人分の人件費が2人になる。

当人の意向も絡めて考える必要がある。

白石：その場合、スタッフたちに何をお願いするのか。しばらく頑張るとお願いするか、考える時間のあるうち次を探して欲しいとお願いするか。きちんとしないといけない。

早瀬：どんな事業をする組織なのか。どう変わるのか。その辺りも詰めていかないといけない。

白石：また、転職等をお願いするにしても、事務局機能をどの時期まで現在の規模で維持するのかというお願いは、しないといけない。

杵本：3月末まで、できればお願いしたいが、そこまでで止めてしまっても仕方ないだろうと思っている。

白石：その辺りはきちんとお願いをしないといけないだろう。

早瀬：次回の理事会をいつにするか。10月後半だろう。そこまでに詰めないといけないだろう。